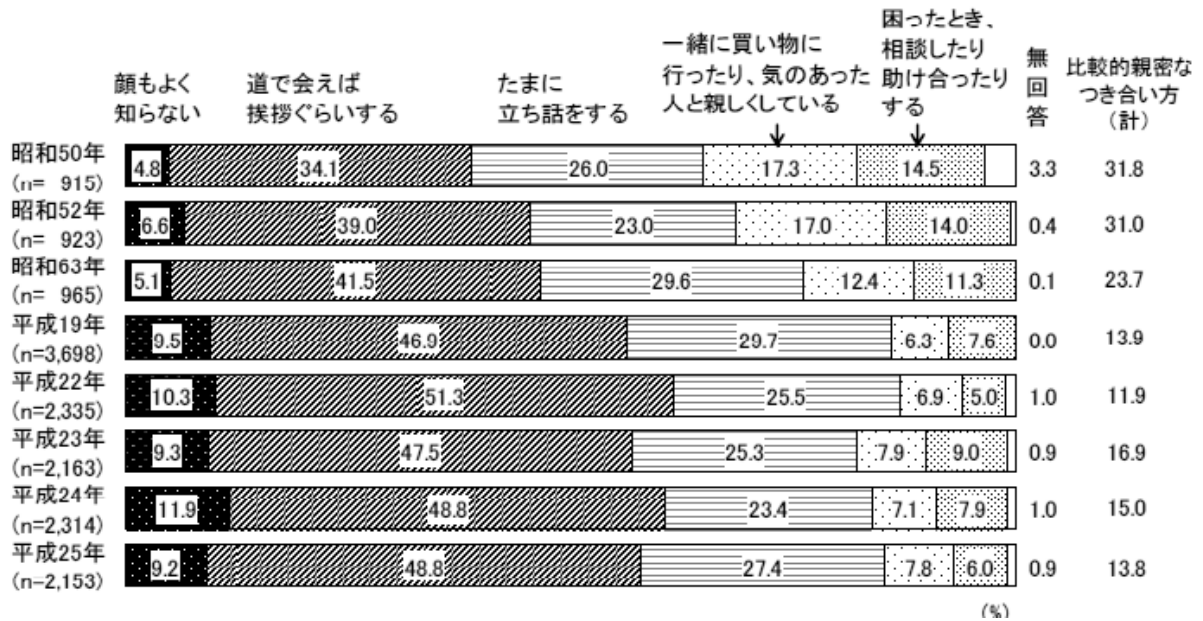


I 子ども・若者を取り巻く状況

～ 子ども・若者を取り巻く地域・就学・就労等に関する統計データ ～

1 地域における状況

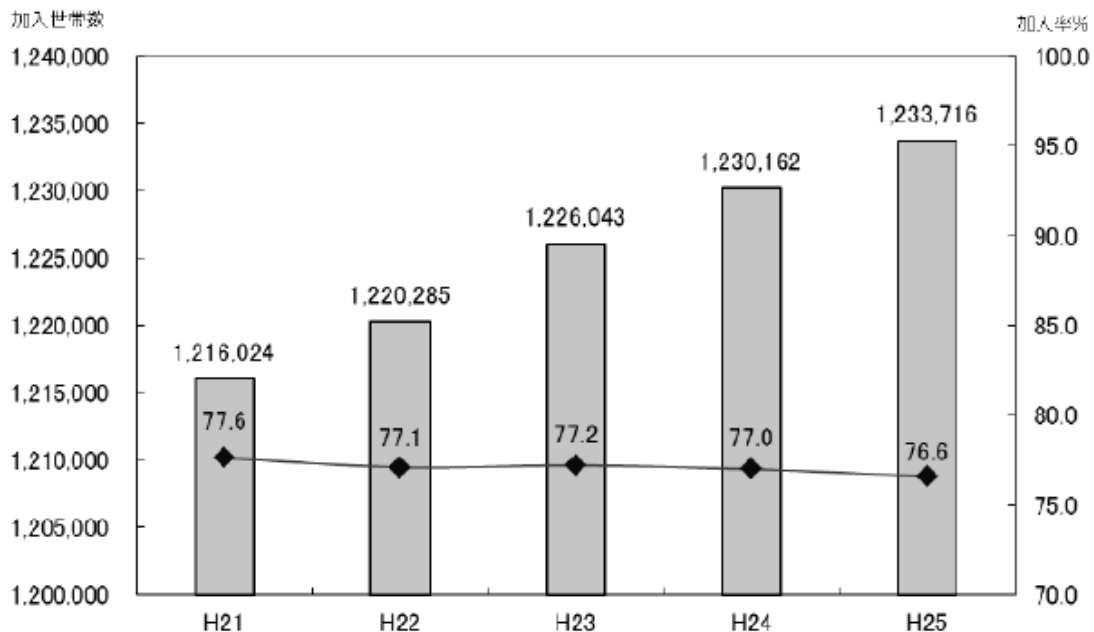
【隣近所とのつきあい方（経年変化）〔横浜市〕】



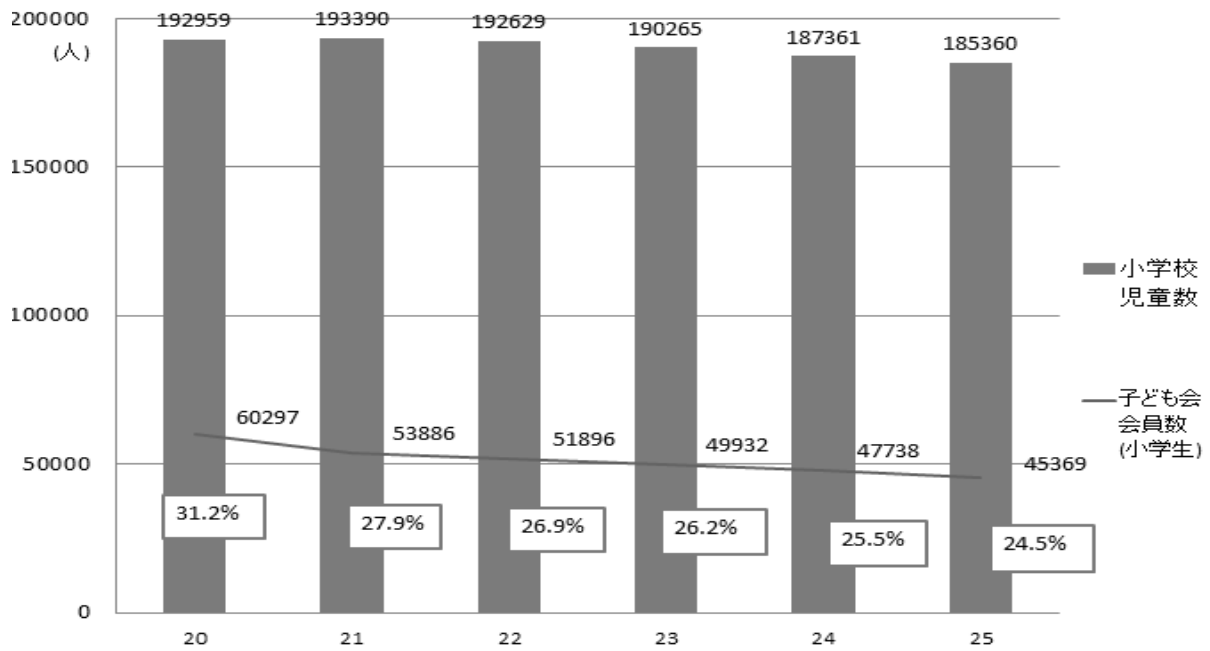
(出典：横浜市民意識調査、平成 25 年)

【自治会町内会加入状況（経年変化）】

自治会町内会加入世帯数及び加入率の推移(各年4月1日現在)



【小学校児童数・子ども会会員数(経年変化)[横浜市]】



2 学齢期における状況

(1) 不登校児童生徒の状況

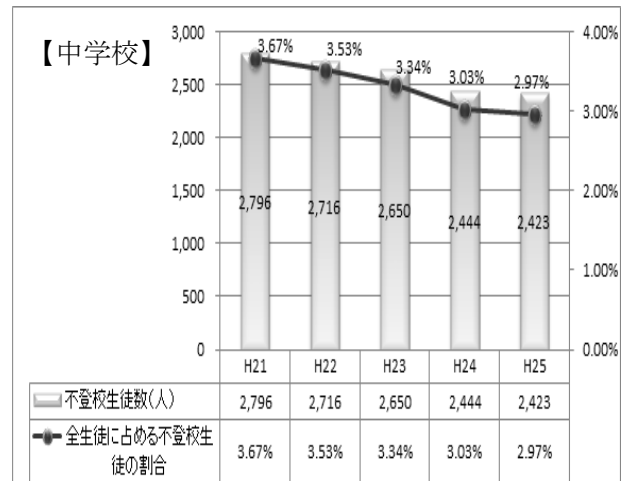
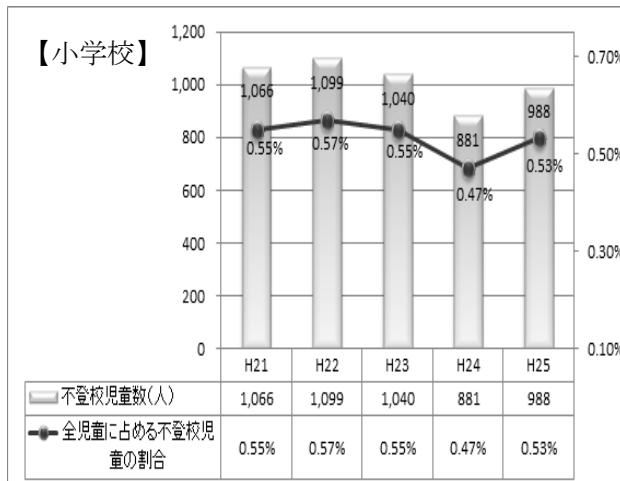
本市における小中学校の25年度の不登校児童生徒数は、3,411人で、前年度に比べ86人増加しています。うち、小学校は、988人と前年度比107人増、中学校は、2,423人と前年度比21人減となっています。

過去5年間では、小学校では1,000人前後で推移しており、中学校では5年連続減少しています。

不登校の定義

何らかの心理的、情緒的、身体的理由のうち社会的要因・背景により登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるため、年間30日以上の欠席したもののうち、病気および経済的理由を除く

【不登校児童生徒の推移】



(2) 欠席日数別の状況

24年度の不登校児童生徒のうち、年間180日以上欠席した児童生徒は601人で、不登校児童生徒全体の18.1%を占めています。

【欠席日数別の不登校児童生徒数】(24年度)

校種	30日から 59日	60日から 89日	90日から 119日	120日から 149日	150日から 179日	180日以上	不登校 児童生徒総数	児童生徒 総数	出現率
小学校	310	165	131	96	76	103	881	187,361	0.47%
中学校	588	349	346	357	306	498	2,444	80,637	3.03%
合計	898	514	477	453	382	601	3,325	267,998	1.24%

(3) 進路の状況

24年度に中学校を卒業した986人の不登校生徒のうち、823人が公私立高等学校等に進学、36人が就職等となっています。

【不登校生徒(中学3年生)の進路の状況】(24年度)

進路先	人数	内 訳
公立高等学校	405	全日制 98、定時制 187、通信制 120
私立高等学校	326	全日制 131、定時制 10、通信制 185
特別支援学校	14	
専修・各種・高等専門学校	78	
就職等	36	
上記以外の機関・団体	5	
その他	122	
合 計	986	

823人
進学率
83.5%

(4) 不登校のきっかけ(24年度)

不登校となったきっかけとして考えられる要因としては、

- ・本人の状況では、「不安など精神的混乱」や「無気力」
- ・家庭の状況では、「親子関係をめぐる問題」や「家庭内の不和」
- ・学校の状況では、「友人関係をめぐる問題」や「学業不振」

などが、それぞれ多数を占めています。

3 10代後半以降における生活実態・就労に関する意識

(1) 横浜市子ども・若者実態調査結果

〈横浜市子ども・若者実態調査の概要〉

- ①調査対象 : 横浜市内に居住する満 15 歳以上 39 歳以下の男女個人
- ②標本数 : 3,000 標本
- ③標本抽出方法 : 住民基本台帳から無作為抽出
- ④方法 : 郵送配付・訪問回収調査（郵送で調査票を送り、調査員が回収する）
- ⑤調査事項 : 平成 21 年度に内閣府が実施した「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」による調査項目を活用し、就労に関する意識・実態をより具体的に把握するための設問や選択肢を追加
- ⑥調査時期 : 平成 24 年 8 月 27 日～9 月 17 日
- ⑦有効回答数 : 1,386 人 (46.2%)

ア ひきこもり群の推計人数

○ひきこもり状態にある若者の推計人数（約 8,000 人）

定義：ほとんど家から出ない状態が、6 か月以上継続し、かつ、疾病、介護、育児等をその理由としない者

10 人〔男性：6 人、女性 4 人〕（有効回答数に占める割合 0.72%） が該当
24 年 1 月 1 日時点の横浜市の年齢別人口において、15～39 歳は 1,136 千人
市内のひきこもり群の推計数は $1,136 \text{ 千人} \times 0.72\% = \text{約 } 8,000 \text{ 人}$

○ひきこもり親和群（※）の推計人数（約 52,000 人）

（※）定義：家や自室に閉じこもりたいと思うことがある等、心理的にはひきこもり群と同じ意識傾向を持っているが、ひきこもりの状態ではない者

63 人〔男性：28 人、女性 35 人〕（有効回答数に占める割合 4.55%）
市内のひきこもり親和群の推計数は、 $1,136 \text{ 千人} \times 4.55\% = \text{約 } 52,000 \text{ 人}$

ひきこもり状態にある人の回答傾向が一般よりも低いと推定されることを勘案すると、この数値は下限値と考えられます。

【参考】内閣府及び東京都調査との比較

・19年度の東京都調査とほぼ同程度の結果となっています。

項目	横浜市	内閣府(*1)	東京都(*2)
標本数	3,000人	5,000人	3,000人
回収数 (率=回収数/標本数)	1,386人 (46.2%)	3,287人 (65.7%)	1,388人 (46.3%)
ひきこもり群の出現率	0.72%	1.79%	0.72%
ひきこもり親和群の出現率	4.55%	3.99%	4.76%

*1) 内閣府：平成21年度 若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）

*2) 東京都：平成19年度 若年者自立支援調査研究 ※対象年齢は15～34歳

イ 無業群の推計人数

○ 無業状態にある若者の推計人数（約57,000人）

定義：「無職」または「派遣会社などに登録しているが、現在は働いていない」者

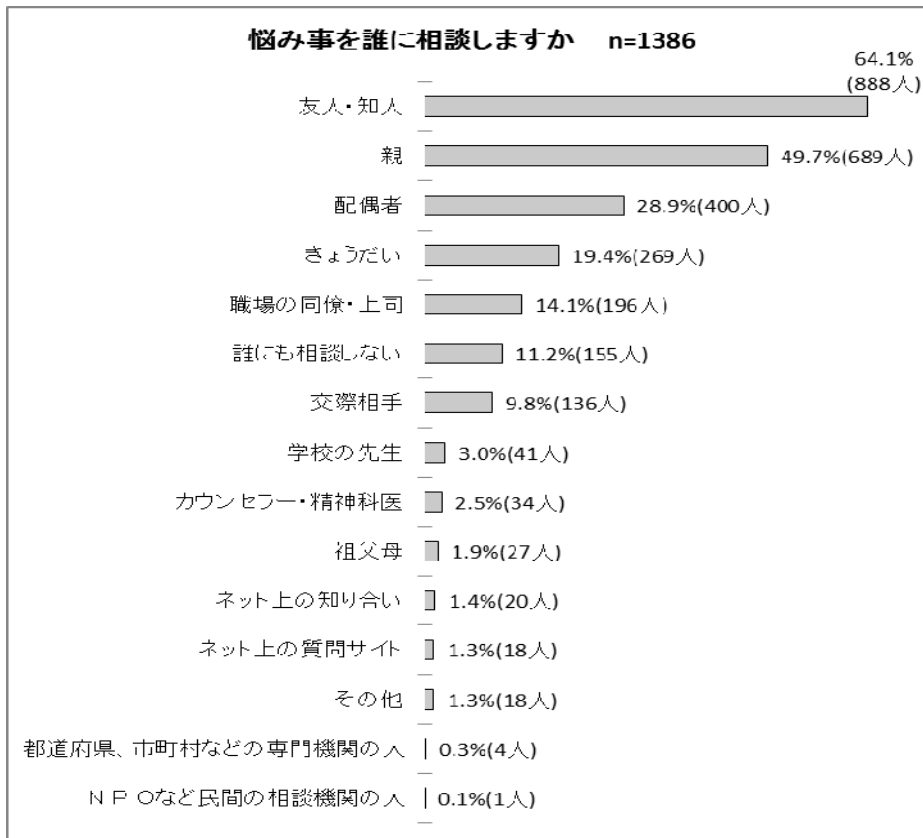
69人〔男性：37人、女性32人〕（有効回答数に占める割合 4.98%）

市内の無業群の推計数は、1,136千人×4.98%＝ 約57,000人

ウ 単純集計結果

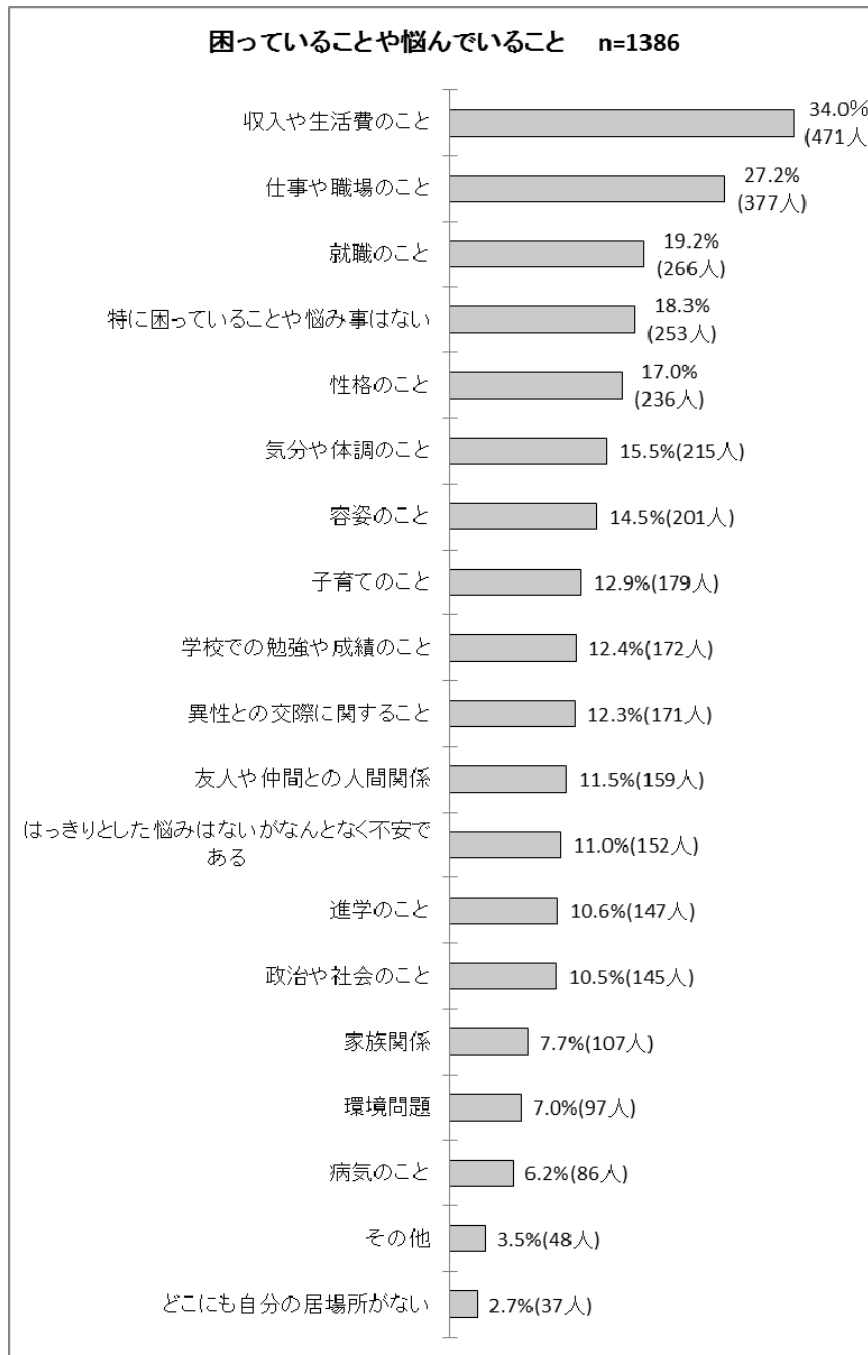
【ふだん悩み事を誰に相談しますか（複数回答）】

・上位5位までの回答は、「友人・知人（64.1%）」「親（49.7%）」「配偶者（28.9%）」
「きょうだい（19.4%）」「職場の同僚・上司（14.1%）」となった。



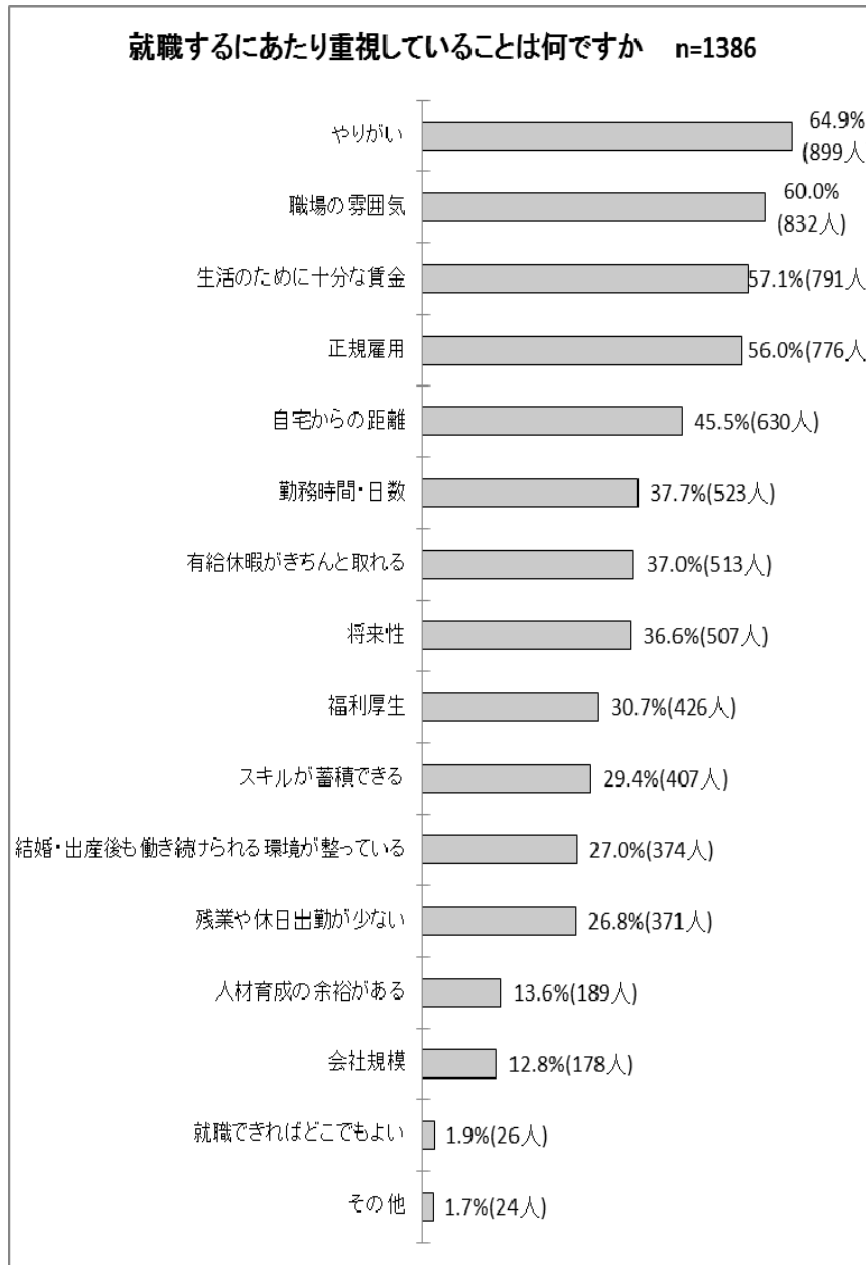
【現在困っていることや悩んでいること(複数回答)】

- ・上位5位まで(「特に困っていることや悩み事はない(18.3%)」を除く)の回答は、「収入や生活費のこと(34.0%)」「仕事や職場のこと(27.2%)」「就職のこと(19.2%)」「性格のこと(17.0%)」「気分や体調のこと(15.5%)」となった。
- ・「どこにも自分の居場所がない」者は2.7%であった。



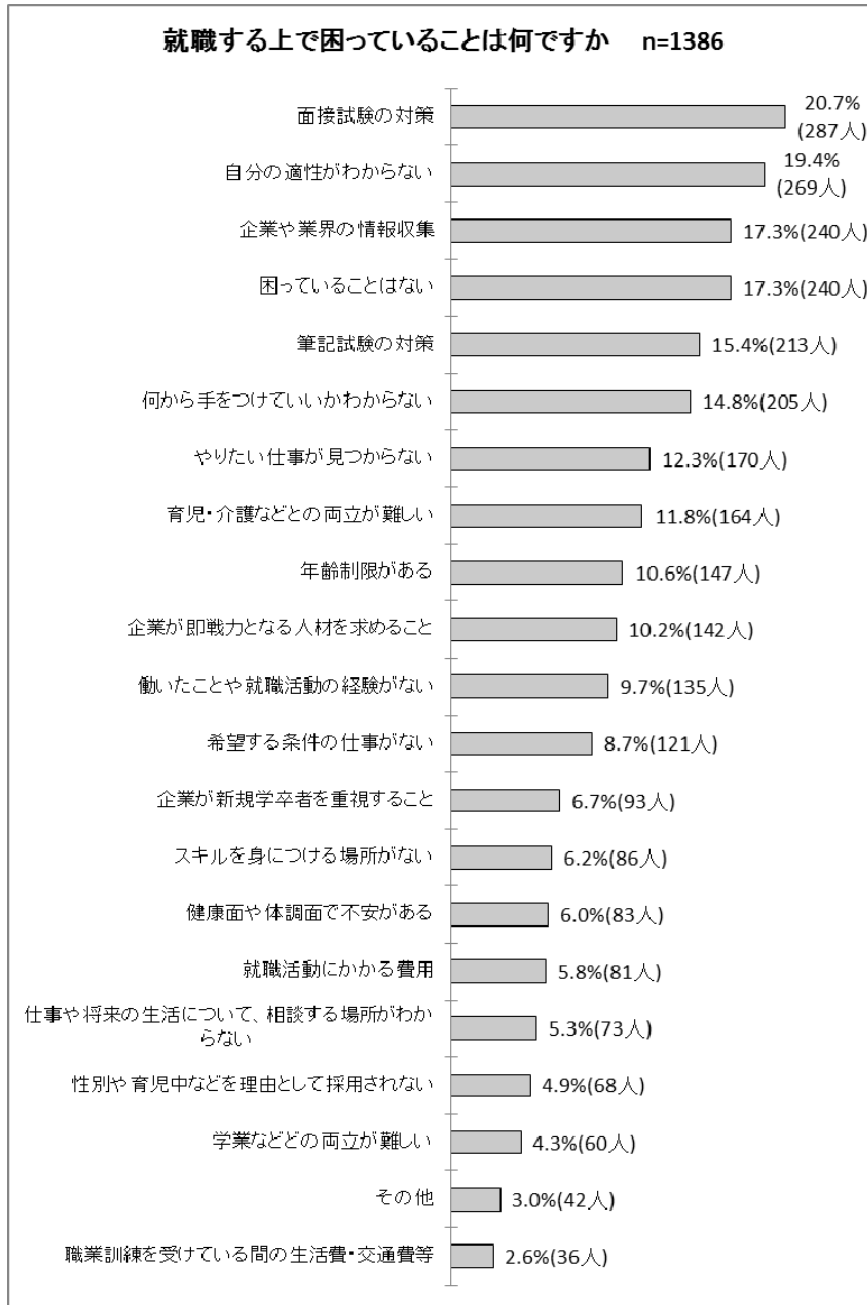
【就職するにあたり重視していること（複数回答）】

- ・上位5位までの回答は、「やりがい（64.9%）」「職場の雰囲気（60.0%）」
「生活のために十分な賃金（57.1%）」「正規雇用（56.0%）」「自宅からの距離（45.5%）」



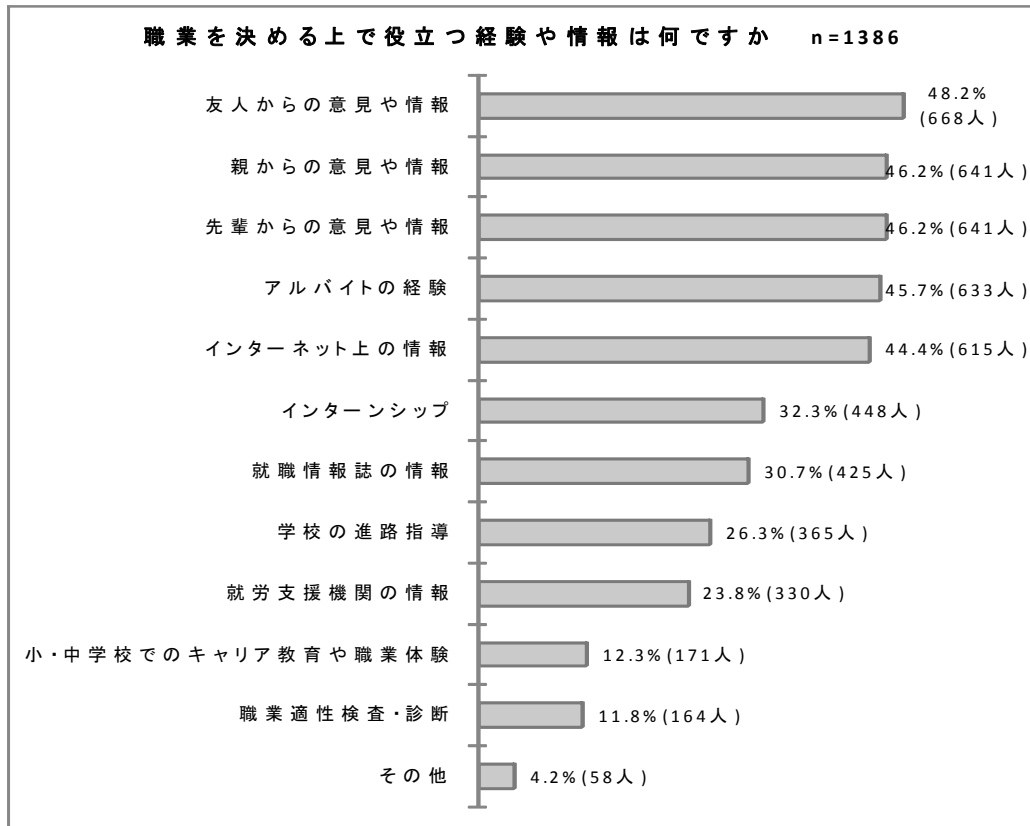
【「就職する上で困ったこと、または困っていること（複数回答）】

- ・上位5位まで（「困っていることはない（17.3%）」を除く）の回答は、「面接試験の対策（20.7%）」「自分の適性がわからない（19.4%）」「企業や業界の情報収集（17.3%）」「筆記試験の対策（15.4%）」「何から手をつけていいかわからない（14.8%）」。



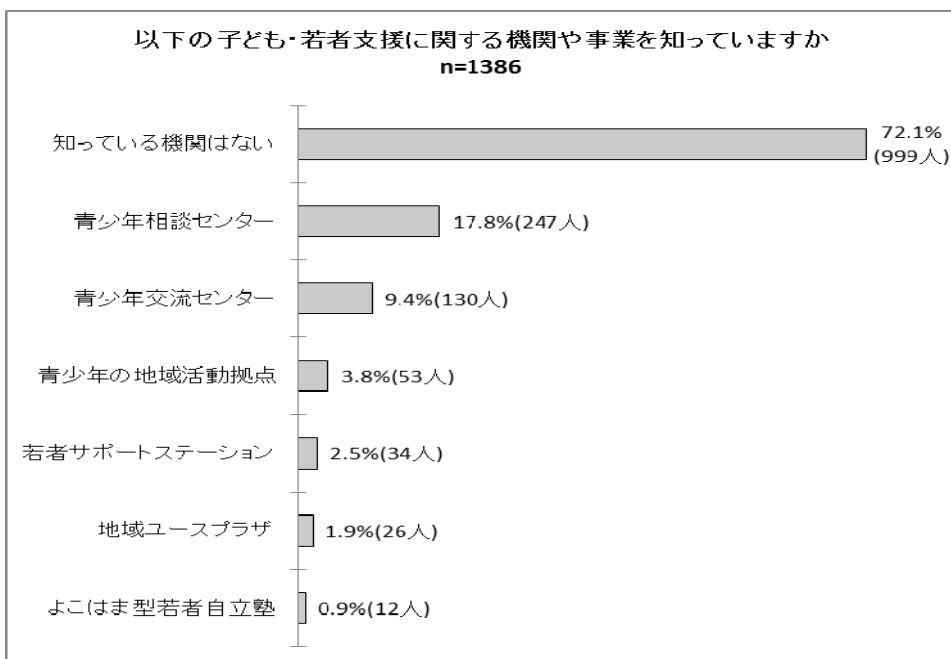
【職業を決める上で参考になる、または役に立つと思う経験や情報】（複数回答）

- ・上位5位までの回答は、「友人からの意見や情報（48.2%）」「親からの意見や情報（46.2%）」
「先輩からの意見や情報（46.2%）」「アルバイトの経験（45.7%）」「インターネット上の
情報（44.4%）」となった。



【以下の子ども・若者支援に関する以下の機関や事業を知っていますか。（複数回答）】

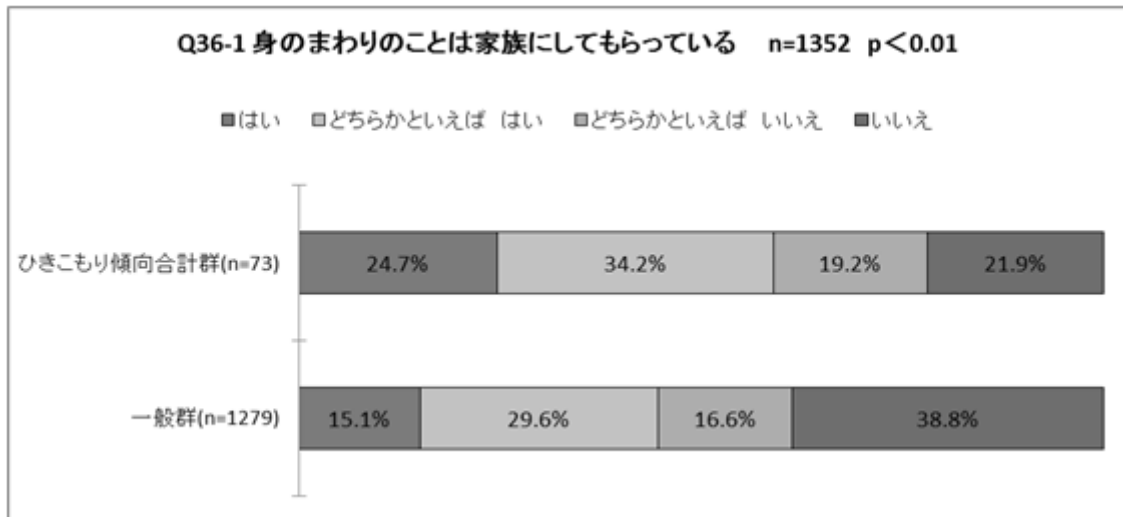
- ・「青少年相談センター（17.8%）」「青少年交流センター（9.4%）」のほかは、
5%未満の認知率であった。「知っている機関は無い」者は72.1%であった。



エ ひきこもり群についてのクロス集計結果

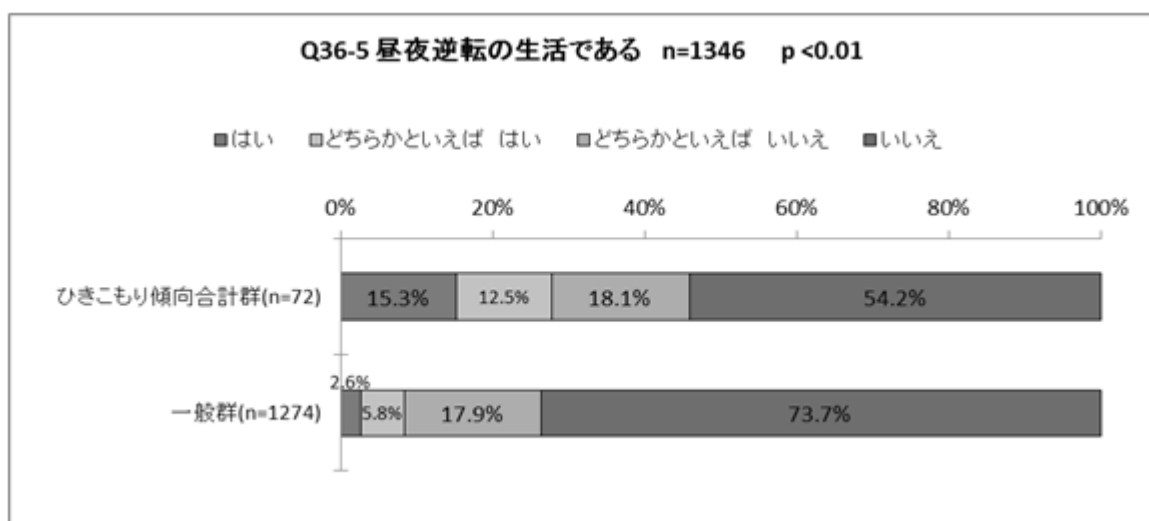
【身の回りのことは家族にしてもらっている】

・「身の回りのことは家族にしてもらっている」という質問に対し、「はい」または「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向合計群では、58.9%、一般群では44.6%でした。ひきこもり傾向合計群は、一般群と比べて、身の回りのことは家族にしてもらっている傾向がありました。



【昼夜逆転の生活スタイルをとる者の割合が高い】

・「昼夜逆転の生活をしている」の質問では、「はい」又は「どちらかといえばはい」と答えた人は、ひきこもり傾向合計群では、27.8%、一般群では8.4%でした。ひきこもり傾向合計群は、一般群と比べて、昼夜逆転の生活スタイルをとる者の割合が高い傾向がありました。



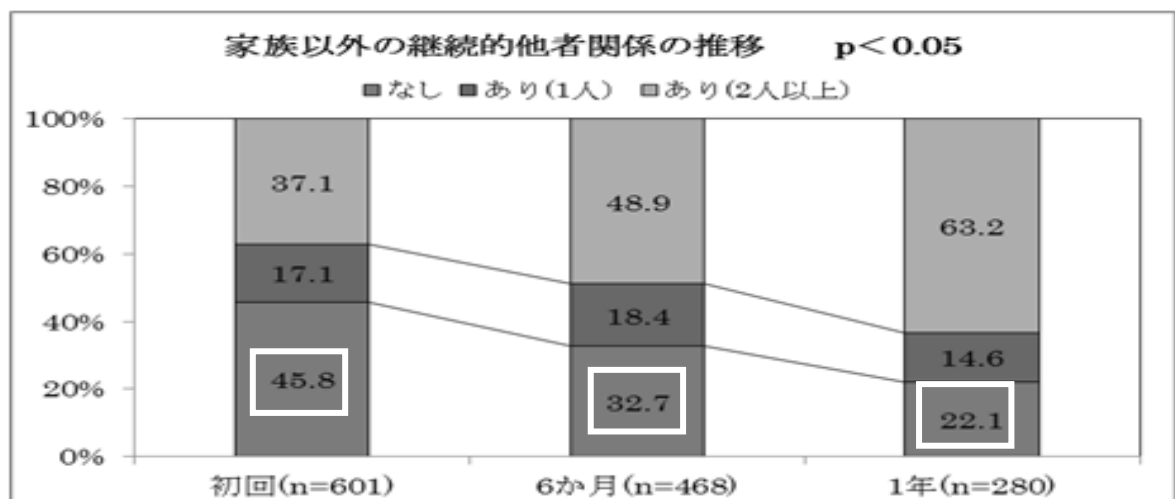
(2) 「横浜市地域若者サポートステーション支援データ」集計結果

〈横浜市地域若者サポートステーション支援データの概要〉

- ①調査対象：横浜市に設置している若者サポートステーションの利用者
- ②標本数：607 標本
- ③標本抽出方法：平成 24 年 10 月～平成 25 年 2 月の新規登録者
各サポステにおいて、各月 60 名×5 か月で計約 300 名
- ④調査事項：支援期間や利用者の属性、サポステを利用したことによる変化
- ③方法：各サポートステーションにおいて、職員がデータ入力
- ④調査時期：平成 26 年 2 月～3 月

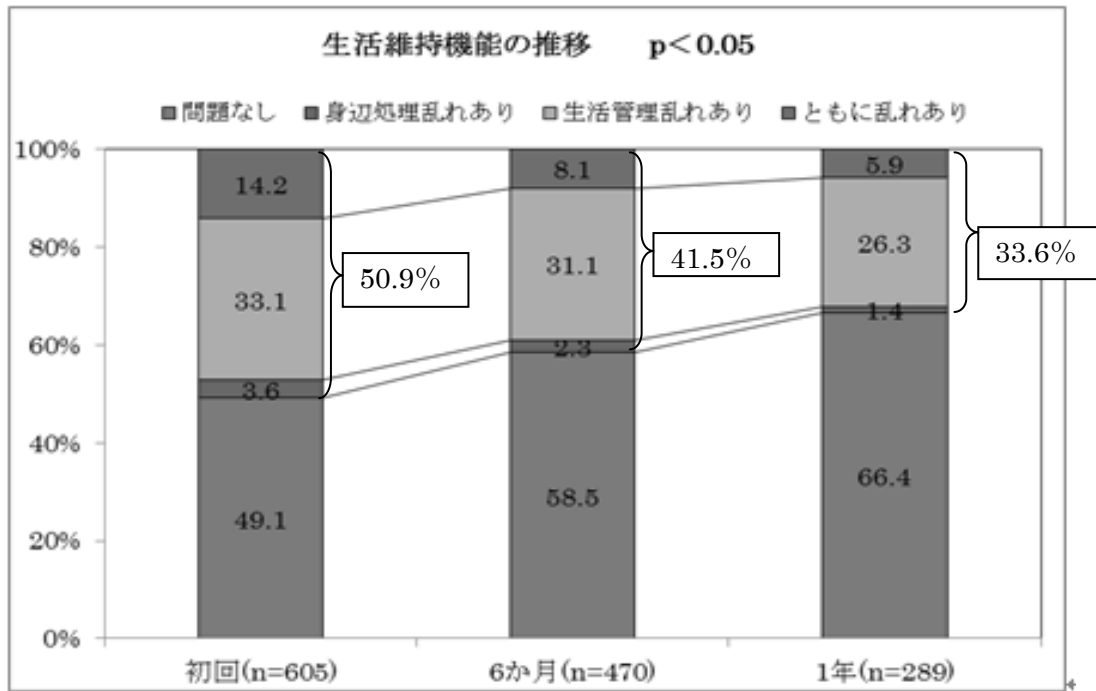
【家族以外の継続的他者関係の推移】

- ・若者サポートステーション利用者の初回面談時に「家族以外の継続的他者関係」がない人は、45.8%でした。若者サポートステーションにおいて支援を開始してから1年後には「家族以外で継続的他者関係」がない人は、22.1%に減少しました。



【生活維持機能の推移】

- ・若者サポートステーション利用者の初回面談時に「身辺処理の乱れがある」「生活管理の乱れがある」人は50.9%でした。若者サポートステーションにおいて支援を開始してから1年後には「身辺処理の乱れがある」「生活管理の乱れがある」人は33.6%に減少しました。



Ⅱ 横浜市における取組

【学齢期の子どもに対する取組】

取り組み	概要	所管局
寄り添い型 学習等支援 【13区】	<p>養育環境に課題がある、生活保護世帯等経済困窮状態にあるなど支援を必要とする家庭に育つ小・中学生に対して、将来的な自立を目的とした学習支援等を実施しています。</p> <p>【25年度実績】 ※25年度は12区で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・延べ利用回数 10,916回 ・利用登録人数 320人 	こども 青少年 局・健康 福祉局
若者サポ ートステー ションによ る高校出張 相談	<p>就労が困難な生徒を多く抱える高校に対し、職業意識の醸成やキャリア形成を図るための支援を行うため、学校との連携のもと、若者サポートステーションが、定期的に出張相談等を実施しています。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別面談延べ人数 778人 	こども 青少年 局
横浜教育支 援センター による登校 支援事業	<p>ひきこもりがちな不登校児童生徒に対して大学生を家庭に派遣し、話し相手になる「ハートフルフレンド家庭訪問」、登校はできないものの外出はできる児童生徒に対し創作活動や体験活動を行う「ハートフルスペース（市内4か所）」や生活習慣や学習生活を身に付ける「ハートフルルーム（市内8か所）」による再登校や社会的自立に向けた支援を実施しています。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハートフルフレンド家庭訪問（訪問児童生徒数） 54人 ・ハートフルスペース（通室実人数） 320人 ・ハートフルルーム（通室実人数） 85人 	教 育 委 員 会 事 務 局
不登校を考 える保護者 のつどい	<p>児童生徒の不登校に悩む保護者の方を対象に、不登校についてのとらえ方や子どもへの接し方など一緒に考え、支援するため、講演会や保護者同士の情報交換会を年6回開催しています。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者のつどい」への延べ参加人数 208人 	教 育 委 員 会 事 務 局
学校におけ るきめ細か な学習支援	<p>各学校では、始業時間前や放課後、土曜日、長期休業期間中、などを活用し、学習指導が必要な児童生徒に対する学習支援を行っています。各学校の実情にあわせ、地域の方や近隣大学生の協力なども得ながら、児童生徒の学習状況に応じた個別指導や学習会などを行っています。</p>	教 育 委 員 会 事 務 局

【若者に対する取組】

取り組み	概要	所管局
青少年相談センター 【1か所】	<p>ひきこもりや不登校など、青少年が抱えている様々な問題について、電話相談や来所相談、家庭訪問、グループ活動などを通じ、社会参加に向けた継続的な支援を行っています。また、児童期・成人期の「ひきこもり地域支援センター」としての機能も担います。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援延べ件数 18,894件 ・来所相談者数 695人（うち、ひきこもり相談427人） 	こども青少年局
地域ユースプラザ 【4か所】	<p>青少年相談センター及び若者サポートステーションの支所的機能を有する施設として、地域において相談、居場所や社会体験・就労体験の提供などを通じ、青少年の自立支援を図ります。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援延べ件数 19,040件 ・来所相談者数 700人 	こども青少年局
よこはま型若者自立塾 【1か所】	<p>長期にわたってひきこもり状態にある若者について、低下した体力を回復するための体力づくりを行うとともに、共同生活を通じて、生活リズムの改善や他人との関わり方を習得するなどにより、若者の社会的・経済的自立を支援します。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期合宿型訓練延べ利用人数 3,793人 ・短期合宿型訓練利用人数 90人 ・長期・継続型(6か月)訓練利用人数 13人 	こども青少年局
若者サポートステーション 【2か所】	<p>困難を抱える若者及びその保護者を対象に、職業的自立に向けた相談をはじめ、アルバイト活動セミナー、メンタルトレーニング等の就労に向けた支援、就労体験プログラムを行っています。</p> <p>【25年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援延べ件数 18,990件 ・来所相談者数 2,542人 	こども青少年局

取り組み	概要	所管局
横浜市就職サポートセンター 【1か所】	求職者の就労を支援するため、市民向け総合案内窓口を設け、一人ひとりの必要性に応じた個別相談やセミナー、若者及びキャリアブランクのある女性を対象としたインターンシッププログラムを実施し、就職相談から就職後の定着支援までの一貫したサポートを行います。 【26年度新規事業】	経済局

【その他の取組(地域における子ども・若者の居場所事業等)】

取り組み	概要	所管局
青少年育成に携わる団体等支援	公益財団法人よこはまユース（外郭団体）、青少年指導員等の青少年関係団体の活動支援をしています。 【よこはまユース】 地域、企業、関係機関等と協働し、青少年活動の支援、人材育成、体験機会・活動の場の提供を行っています。 【青少年指導員】 地域において青少年の体験活動や社会環境実態調査、夜間パトロールなどを実施し、青少年の健全育成に取り組んでいます。 【子ども会等の青少年関係団体】 子どもたちの健全な仲間づくりと心身の成長発達のため、地域において、異年齢の子どもによる遊び体験を通じた活動等を行っています。 【25年度実績】 ・知っておきたい！子ども若者どこでも講座 43回 ・自然・社会体験活動プログラム参加者 延べ2,493人 ・青少年指導員委嘱数 2,715人（平成25年4月1日現在） ・社会環境実態調査 年1回 ・夜間パトロール 年1回	子ども青少年局
青少年の地域活動拠点【5区】	主に中・高校生世代を中心とした青少年が安心して気軽に集い、仲間や異世代との交流、社会参加プログラム等の体験活動に参加できる機会を提供することで、青少年の成長を支援します。 【25年度実績】 延べ利用者数 49,565人	子ども青少年局